

日本全国に散らばる拠点のPC約2,000台を Windows 10へスムーズに移行。 最新のPC環境をいち早く導入し、ビジネス成長に役立てる

導入ソリューション・サービス名

Windows 10 マスタ作成サービス、クライアント PC LCM サービス、
Windows as a Service 2Days ワークショップ、WSUS 構築サービス

kanamoto

株式会社カナモト ● 1964年設立。建設機械機材のレンタルを主力に、鉄鋼製品の販売、イベント用品・情報通信機器のレンタルを手がける株式会社カナモト。本社を北海道札幌市に置く同社は、日本国内にとどまらず、中国・東南アジアにも進出。現在ではグループ全体でほぼ500拠点を擁し売上高でも世界第7位と、名実ともに日本の建機レンタル業界のリーディングカンパニーです。

新しいICTを積極的に取り入れ、事業成長に役立ててきたカナモト。Windows 10への移行も、いち早く、かつスムーズに移行するため、東芝クライアントソリューションのWindows 10 マスタ作成サービス、クライアントPC LCM サービス、およびWindows as a Service 2Days ワークショップとWSUS構築サービスを活用しました。

課題と背景 ▶ 一日でも早いWindows 10への移行が会社の成長へ貢献

選んだ理由 ▶ Windows 10 PCを、必要な時期に必要な台数だけ用意

導入の成果 ▶ 効率良くWindows10へ。Windows as a Serviceにも対応

今後の展開 ▶ 新たなICT投資をビジネスの成長に生かしたい

導入前の課題と背景

一日でも早いWindows 10への移行が会社の成長へ貢献すると期待

ICTを積極的に活用し事業を成長させてきた株式会社カナモト。1985年にはすでに、各拠点にあるPCをオンライン網で結び、建設機械のレンタルの手続きなどを一元的に管理する基幹システムを構築しています。「どの拠点にどのような建機があるかがすぐに分かる。そのような基幹システムをいち早く構築してきたこと。それが現在のビジネスの成長に繋がっています」と広報室 次長の高山雄一氏は説明します。

同社では、普段から従業員がWindows 7を搭載するノートPCを駆使して、基幹システムを利用したり、メールやグループウェアを活用していました。しかし、2020年1月に迫ったWindows 7の延長サポート終了を知り、Windows 10への移行を早急

に進める必要性を感じました。

同社の拠点は192（2018年6月現在）、ここでは約2,000台のWindows PCが活用されています。その膨大なPCのすべてをWindows 10に移行するには、時間も手間もかかります。

しかし、一方でWindows 10に移行するメリットも感じていました。執行役員 情報システム部長の熊谷浩氏は「Windows 10への移行はどうしても避けられないことです。それなら他に先駆けて取り掛かれば、先行者利益になるはず。一日でも早く一台でも多くやるのが会社の利益に繋がるのではないかと期待しました」と語ります。

東芝クライアントソリューションを選んだ理由

要望に合わせて柔軟に設定したWindows 10 PCを、必要な時期に必要な台数だけ用意できる

当初、同社では「新たに購入したWindows 10 PCを、システムサポート部門で設定してから各拠点の従業員に送る」という方法で、Windows 10への移行を試みしました。その作業を担当したシステムサポート課の上田奈緒江氏は「自分たちで作業してみるとPC 1台の設定に約3時間もかかりました。このペースで進めた場合、年間300台が限界で、Windows 7のサポート終了に間に合いません。しかも、移行のた

めの作業負担がかなり重く、この作業に忙殺されてしまうという問題も見えてきました」と課題を口にします。

また、新しいOSであるWindows 10に関する情報不足にも頭を悩ませました。

そんなおり、東芝クライアントソリューションはWindows 10への移行に関するサービスが充実していることを耳にし、利用を検討しました。採用に踏み切った大きなきっかけは、2017年春に熊谷氏が東芝クライアントソリューションのLCMセンターを見学したことでした。LCMセンターではPCをキッティングするサービスを行っています。熊谷氏「LCMセンターなら、私たちの要望に合わせて、Windows 10への移行に必要な作業をやってくれと安心しました。作業ミスが生じないように1台ごとにバーコードをつけて管理しているので、正確性も担保されています。生産能力も高く、セキュリティも安心。ここに任せればWindows 7のサポート終了に間に合うと確信しました」



株式会社カナモト
情報システム部長
熊谷 浩氏



株式会社カナモト
情報システム部
課長
小野政法氏



株式会社カナモト
システムサポート課
課長
長崎 敬氏



株式会社カナモト
システムサポート課
主任
上田奈緒江氏



株式会社カナモト
システムサポート課
広報室
次長
都丸勝文氏



株式会社カナモト
広報室
次長
高山雄一氏

導入の成果

クライアントPCを効率よくWindows10へ。Windows as a Serviceにも対応

Windows 10への移行のために、同社が東芝クライアントソリューションに依頼したのは、マスタ作成、クライアントPC LCMサービス、およびWindows as a Service 2Days ワークショップとWSUS構築サービスでした。

マスタ作成

マスタでのカスタマイズが反映されない問題を解決

企業の使用環境に合わせたWindowsの設定を膨大なPCに対して実施するにはキッティングを行うのが通常です。そのキッティングに必要なのがマスタディスクです。

ところがWindows 10の場合、従来のマスタ作成の方法では失敗するケースが珍しくはありません。例えば同社では、業務が効率的に進められるように、Windowsのスタートメニューに利用頻度の高いアプリケーションだけが一覧されるようにカスタマイズしています。しかし、従来の手法でマスタを作成すると、カスタマイズが反映されないという問題が生じました。

上田氏「東芝クライアントソリューションに相談し、Windows 10に即したマスタ作成を行ってもらったところ、カスタマイズしたとおり、利用頻度の高いアプリケーションだけがメニューに並ぶようになりました。これは自分たちでは解決が難しかった問題でした」

クライアントPC LCMサービス

指示を送るだけで、設定済みのWindows 10 PCを各拠点に発送

LCMサービスは、PCの導入計画から調達・導入・運用・保守・撤去・リユースなどライフサイクル全般をマネジメントするサービスです。予備機の管理を任せれば、PCが故障した際には代替機としてキッティング済みのPCを従業員に送ることもできます。同社では、このサービスをWindows 10への移行に利用しました。

同社は、Windows 10用に購入した新しいPCを東芝クライアントソリューションに預けたのち、LCMサービスの仕組みを使って、キッティングしたPCをLCMセンタから各拠点に送っていく方法を探りました。

システムサポート課の都丸勝文氏は「LCMサービスのポータルから、どの拠点に何台、この設定にして送ってほしいと送信するだけで、キッティング済みのPCが届くので、作業負担が大幅に減りました。また、従業員は送られてきたPCに、過去の自分のデータを移すだけで、すぐに利用できます」と語ります。

この方法を用いて3ヶ月で500台の移行を終えた同社では、Windows 7のサポート終了までに、すべてのPCを入れ替える見込みが立ったと考えています。

Windows as a Service 2Days ワークショップ

Windows 10で新たに導入された仕組みを、実機を用いたワークショップで理解

Windows 10では、従来のWindowsにはなかったWindows as a Service



という仕組みが取り入れられました。これは、サービスとして新しいバージョンのWindowsを提供していくという考えで、年2回のペースでWindowsを進化させていくものです。

Windows as a Service 2Days ワークショップは、Windows 10の円滑な運用管理を目的として、Windows as a Serviceを正しく理解するために2日間にわたって開かれるワークショップです。東芝クライアントソリューションのスタッフが企業を訪問し、実機を用いたハンズオン形式でワークショップを実施します。

システムサポート課 課長の長崎敬氏は「Windows 10を本格導入するにあたり、Windows 10がどういう仕組みになっているのか、どう管理していけばいいのかを理解する必要がありました。とはいえネットで情報を探してみても、イメージが掴みません。しかし、Windows as a Service 2Days ワークショップでは、実機を実際に操作しながらの説明もあり、イメージが掴みやすかったです」と言います。

またサーバー管理面のメリットとして、サーバー管理を担当する情報システム部 課長の小野政法氏は「Windows 10におけるビルドごとのサポート期間も把握できました。期限が分かることで、スケジュールを立てて、やらなくてはならないことを明確に定められるのもサーバーの運用においては重要です」と語ります。

WSUS構築サービス

負荷の掛かる機能更新プログラム更新に対応できるようサーバーをチューニング

Windowsでの更新プログラム配信に用いられるのが、WSUS (Windows Server Update Services) と呼ばれるサーバーです。Windows 10では更新プログラム配信の際に、すべてのPCに対して、数ギガバイトという巨大なファイルがネットワーク経由で送られるため、ネットワークに大きな負荷がかかります。それに対応するため、WSUSをWindows 10環境に適した設定にチューニングすることも東芝クライアントソリューションに依頼しました。

小野氏「ネットワークが使われていない時間帯に、機能更新プログラムが配信されるように設定でき、ネットワークの負荷が軽減できます」

今後の展望

新たなICT投資をビジネスの成長に生かしたい

同社では、これまで同様に、ICTへの投資が事業の拡大に貢献すると見て注力しています。遠隔操作できるロボットの研究開発を手がけているのもその一環です。

熊谷氏「Windows 10にいち早く対応することは将来のビジネスの成長に役立つと考えています。今後新しいことをやろうとすると、Windows 10でしか動かないシステム、アプリケーション、デバイスが出てくるかもしれません。移行しておかないと、

新しい事業を始めようとしたときに迅速に動けないリスクがあるのです」

ビジネスや社会環境の変化に応じてICTの活用も変わっていきます。企業が新しいビジネスを始めるときに求められるPC、ICTソリューションを提供することで、東芝クライアントソリューションはお客様のビジネスに貢献してまいります。

BEFORE

Windows 10用のマスタディスクを作ったが、カスタマイズした項目が無効に ▶

社内に対応しているのはWindows 7のサポート終了に間に合わない ▶

Windows 10に関する情報が不足し、移行の妨げになっていた ▶

AFTER

正しいマスタ作成で、カスタマイズした通りのキッティングが可能に ▶

LCMサービスの利用でWindows 7のサポート終了までの移行に目途がついた ▶

実機を用いるハンズオン形式のWindows as a Service 2DaysワークショップでWindows 10の運用管理のイメージがつかめた ▶